

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	飛騨市立宮川小学校			
校長名	森本義彦	対象学年	全校児童	人数	23名	
活動名	ふるさと学習		時間数	45～50時間	継続年数	9年
題 材	1 自然環境(山野・河川・動物・植物・その他) [ナチュール宿泊体験、池ヶ原湿原遠足] 2 歴史(出来事・史跡・先人・その他) [三川原水見学、ナチュール宿泊体験] 3 文化(芸能・芸術・民話・風習・その他) [宮川古大尽] 4 地場産業(農業・水産業・伝統工芸・その他) [稲作体験] ⑤ 絆を深め、よりよりふるさとをつくる活動 [芝桜植え、宮川町運動会・文化祭参加、 6 その他() [あじさいロード保全活動]					
複数年継続 するための 工夫改善	・ナチュール宿泊体験では、地元の方々や宿泊施設の理解・協力を得て、地域の特徴があるものについては継続し、新しい活動も取り入れながら行っている。 ・伝統芸能への取り組みや地域の様子を知る活動では、地域の方を外部講師として招き、実際に体験することを大事にしながら、子どもたちの活動意欲を高めている。					

1 ねらい

〈ふるさと学習〉

◎地域に愛着をもち、人と協力して地域に貢献していく子に育てるために、地域を知り地域の方から知恵や生き方を学び、感謝の気持ちをもって地域の役にたつ甲斐性を身に付けさせる。

・宮川町の自然と文化、人材を活かした体験活動を通して、「3つのか」を意識させながら、「気付いて動く」児童を育てる。（「3つのか」：感動・甲斐性・感謝）

2 活動の概要

(1) ナチュール宿泊体験学習

・期日 平成26年6月10日(火)～14日(金) [5・6年は3泊4日 4年は2泊3日]

・場所 宮川町「ナチュールみやがわ」

- ・内容 ① 自然観察会：地元講師による宿泊施設裏の山を利用したフィールドワーク
- ② そば打ち体験：地元『万波そばの会』の協力のもと実施
- ③ 魚釣り・魚つかみ体験：地元漁協の協力により実施
- ④ 宮川の昔の話：地元出身講師による宮川町の地区名の由来等に関する話
- ⑤ 郷土料理体験：地元『宮川町ひまわり会』の協力のもとでの郷土料理づくり
- ⑥ 生活体験：食事づくり、ボランティア活動（宿泊施設の清掃）

資料1

(2) 池ヶ原湿原へのふるさと体験（全校遠足）

毎年、地元の自然にふれるふるさと体験（全校遠足）を行っている。本年度は、池ヶ原湿原に行った。途中の洞地区にあるカツラの大木を見学した後、池ヶ原湿原へ行き水芭蕉等の植物に間近に触れ自然のよさを実感すると共に、講師の方から湿原の保全活動についての話を聞いた。

資料2

(3) 三川原水見学

打保谷から三川原地区に引かれている用水の見学に、4・5・6年生で行った。講師の方から地域の様子や耕地整理の話を聞いた後に、1.5km程の山道を歩き用水に到着した。800m程の用水のトンネルを実際に歩き、どのようにして水が引かれたのかを実感した。

資料3

(4) 宮川古大尽

昨年度まではクラブ活動として4年生以上の希望者で行っていた。今年度からは、宮川町唯一の学校として、「町の伝統文化を継承するのは子どもたち」の考えのもと、全校で取り組むこととし、『宮川伝統芸能保存会』の方を講師として学び、運動会や文化祭で発表した。

資料4

(5) あじさいロードの保全活動

あじさいロードについて、講師の方から由来や保全活動の様子話を聞き、学校近辺のあじさいの保全活動を行った。

資料5

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

(1) ナチュラル宿泊体験学習

- ① 「自然観察会」では地元の講師による野外観察会を実施した。木々の種類についての話を聞き、地域の自然を知ったり豊かさにふれたりすることで、宮川の自然について関心を深めることができた。
- ② 「そばづくり」では、『万波そばの会』の方々を講師としてそば打ちの体験をした。地元特産の材料で講師の方々とふれ合いながら、手打ちのそばへの関心を深めることができた。
- ③ 「魚つかみ」では、宮川下流漁業協同組合の協力により魚の提供を受け、池に放したイワナ等を釣ったりつかみ取りしたりする体験ができた。宿泊施設の管理者の方の指導を受け、「命」を感じながら魚の内蔵を取り除くことから串焼きまでを体験できた。
- ④ 「宮川の昔の話」では、宮川町の昔の様子や地区名の由来等を聞き郷土について詳しく知ることができた。
- ⑤ 「郷土料理体験」では、『宮川町ひまわり会』の方々を講師として、宮川に伝わっている笹餅やイワナ料理を教えていただきながら一緒に調理をした。地元につながる料理を知ること、郷土料理に関心をもつきっかけとなった。

資料6

- (2) 池ヶ原湿原に全校で行った。途中の洞地区にある大木を見学した後、池ヶ原湿原の水芭蕉等の植物に間近に触れ、自然のよさを実感した。講師の方から、池ヶ原湿原の保全活動について話を聞き、多くの方々の努力があって宮川町のすばらしい自然や景観が保たれていることを知り、自分たちができることに取り組んでいきたいという思いへつながった子もいた。

資料7

- (3) 三川原在住の講師の方に、最初に作られた用水や耕地整理の話をしていただいた後に見学をした。用水までの山道を実際に歩き、現在の用水のトンネルの中を歩くことで、工事の大変さや先人の方々の願いや苦勞を身をもって感じる事ができた。この用水を守るための活動が今も続けられていることを知り、自分の地域へと目を向ける子や将来へつながる思いをもつ子もいた。

資料8

- (4) 昨年度まではクラブ活動として4年生以上の希望者で行っていた「宮川古大尽」に、全校児童で取り組んだ。『宮川伝統芸能保存会』の方々に、手踊りと笠踊りを教えていただき、回を重ねる毎に自信をもって誇らしげに踊る姿が見られるようになった。1・2年生は手踊りを、4・5・6年生は手踊りと笠踊りの両方を練習した。宮川町運動会と宮川町文化祭で発表し、伝統芸能を引き継いでいる姿を地域の方々に発信し、喜んで見ていただくことができた。

資料9

- (5) 国道360号線沿いに植えられているあじさいについての話を聞き、地域の方々の願いがこめられていることや保全に対する思いを知り、活動への意欲につながった。

資料10

4 活動による児童生徒の変容（伸長・成長等）

- (1) 地域の山野や河川・生息する動植物等にふれたり、様々な活動をしてみえる地域の方々の生き方や考え方を知ったりすることで、地域の方々に感謝し自然や文化等を守り受けついでいこうとする気持ちが育っている。また、それらを通して、自分がどのようになりたいかを考えたり将来の思いへとつないだりする子がでてきている。
- (2) 地域の方の「地域の子は地域で育てる」という意欲的な姿勢のもと、地元へ愛着をもち、よりよいふるさとを創ろうとする気持ちが育っている。

資料11